

平成 2 4 年度 岡山県歯科医師会秋季歯科医学大会

□ 演 題

「総義歯難症例への対応」

田 中 五 郎 先生

「誰にでもわかる総義歯治療の基礎と臨床」

三 木 逸 郎 先生

□ 日 時

平成 24 年 11 月 11 日(日)

10 : 00～15 : 30

□ 会 場

岡山県歯科医師会館 5 階大ホール

日 程

座 長 居樹 秀明

10:00 開 会 会 長 酒井 昭則

10:10 講 演 講 師 田中 五郎 先生

12:00 昼 食

13:00 講 演 講 師 三木 逸郎 先生

15:00 質 疑

15:30 閉 会 副会長 藤井 龍平

■ 当日、以下のものをご持参下さい。

1. プログラム
2. 生涯研修事業 IC カード

(社) 岡山県歯科医師会

総義歯難症例への対応

～筋圧中立帯を基準とした総義歯製作法～



神奈川県開業 ^{た なか いつ ろう} 田 中 五 郎 先生

超高齢社会と言われる現在の無歯顎患者さんの特徴は、新たに無歯顎となる患者さんよりも、総義歯を長期間使っていらっしゃる患者さんが多いということです。その為の下顎のみならず、上顎も顎堤吸収が進んでいます。これに対して従来の歯槽頂を配列や、義歯製作の基準とした考えでは、舌房を極端に狭くしてしまい、患者さんからは、義歯を入れていることもつらいと言う証言を多く聞きます。こういった顎堤吸収が進んだ患者さんに対して、舌房を確保し、周囲筋とも調和し、違和感なく装着できて、食べられる義歯を作るためには「筋圧中立帯を基準としたデンチャースペースに義歯を作る」という方法が必要になってきます。

この方法は、顎堤吸収の度合いに左右されないで、設計やテクニックがとてもシンプルで、経験の少ない歯科医師でも、安心していわゆる難症例に取り組めます。

また、インプラント治療における、トップダウントリートメントにおいても、ゴール地点としての補綴物の形態を決定するのに、この理論は必須なので、注目されていますし、機能障害を持った在宅の患者さんにも、生理的運動を阻害すること無くリハビリが出来るので、失った機能を再度獲得するのにとても有効です。

そうはいつでも筋圧中立帯の求めかた、上顎の人工歯を解剖学的歯槽頂より外側に人工歯を配列しても大丈夫なのかという疑問がでてくると思います。今回のセミナーでは、そのような疑問に対して、特殊な器具機材をもちいることなく、歯の萌出機序をヒントに、模型上の解剖学的メルクマールから筋圧中立帯を求める方法、歯槽頂を外して人工歯を配列しても義歯が外れない床外形と研磨面の設定方法、治療用義歯を用いてのリハビリテーションと顎位の補正等、難症例と言われる顎堤吸収の強い症例に対しても、それを意識すること無く対応出来るテクニックを解説し、実際に行っているところをビデオを使って紹介したいと思います。

【抄 録】

誰にでもわかる総義歯治療の基礎と臨床

～ 訪問診療にも応用できるテクニック ～



兵庫県開業 ^み三 ^き木 ^{いつ}逸 ^{ろう}郎 先生

「総入れ歯が合わない、痛くて噛めない」と来院される患者さんから過去に作られた義歯を見せてもらおうと、いろんな噛み合わせや形態をしています。

その人の口腔容積や機能（発語・咀嚼・嚥下）は同じなのに、どうして義歯の形が違うのでしょうか？

制作理論が同じなら、どんなテクニックや器材・材料を使っても、仕上がりはほぼ同じになるはずです。

本来あるべき位置に人工歯が並んでいないと、口唇・頬・舌の協調運動を邪魔して、義歯床が動かされて諸問題が発生します。

天然歯は、口腔周囲筋のニュートラルゾーン（筋圧中立帯）に萌出して機能します。無歯顎治療においても同様に、有歯顎時代の口腔容積（デンチャースペース）を復元し、口腔周囲筋の筋圧中立帯で得られた下顎の義歯床の中央に人工歯を配列すると、食塊移送をする舌運動の場（舌房）が確保されて総義歯は維持できます。

機能する総義歯には、歯槽骨の吸収の度合に関係なく、ある一定の基本形態があります。この基本形態のイメージができてくると、総義歯治療は必ず上達してきます。

解剖学的指標を包含した印象模型で標準寸法の咬合床を作製し、個々に合わせて咬合高径・咬合平面を設定し、舌房を確保した人工歯の配列位置の確認、重合精度、咬合調整へと外周りにも盛った粘膜適合試験によりニュートラルゾーンを確認して各工程を進めると、機能にマッチした総義歯が仕上がってきます。

術者が与えた咬合設定に対して生体がどう反応するか、機能を読んでより快適なものに具現化していくことが成功の鍵になります。

今回お話しする理論と方法で義歯治療を進めていくと、著しい顎堤吸収など難症例と言われる症例だけでなく、片マヒなど機能障害がある症例でも対応が可能になってきます。

失敗しやすい要因を分析し、その対処法についても解説します。

【MEMO】